

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A)

事業所番号	0270101611		
法人名	株式会社 矢野工務店		
事業所名	なるたきグループホーム		
所在地	青森県青森市大野鳴滝78-56		
自己評価作成日	平成23年10月24日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の重度化に伴い、ケアの仕方も見直しており、重度の方へも対応可能なように、職員の介護技術の向上に努めている。
 ・地域との交流。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の声に耳を傾け、常に利用者の立場に立ったケアに努めている。ホーム独自の理念には、その思いと地域密着型サービスの役割を反映させており、地域との関わりを深めるため、積極的に町内会等に働きかけ、地域に向けて、自分達が出来ることが提供できるように取り組んでいる。また、利用者が重度化した場合でも対応が可能なように、職員の技術を向上させるべく、日々、取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成23年12月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所内に掲示し、理念の共有化を図っている。</p>	<p>「ご家族、地域社会、利用者、スタッフとのふれあいを通じ、豊かな人間関係を保ち支え合う場を提供いたします。」等、ホーム独自の理念を掲げ、地域の方々に自分達が出来ることを提供できるように取り組んでいる。また、理念を各ユニットのホールに掲示すると共に、職員ミーティングで話し合う等、理解・共有化を図っている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>夏祭りの際は地域住民へ参加を呼びかけ、多数の方が来所しており、交流を図っている。</p>	<p>ホームでイベントを行う際には、地域住民へ参加を呼び掛け、交流が図れるように取り組んでいる。また、近所の理髪店に出向いてもらったり、福祉科の生徒をボランティアとして受け入れる等、地域とのつながりを大切にしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>見学者等に対して説明をし、理解をしていただけるように努めている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では施設の取り組みや利用者の様子等を説明し、それについて話し合い、サービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議では、自己評価及び外部評価の結果報告やホームの活動に対する振り返り、日常の関わりの中で気付いたこと等を話し合い、サービスの質の向上へとつながるように取り組んでいる。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村の担当者とは日頃から連絡を取り合っている。</p>	<p>運営推進会議への参加について、家族の都合に合わせて行政担当者の都合がつかず、参加する事が難しいものの、会議録を提出し、ホームの実情について理解してもらえるように取り組んでいる。また、状況に応じて適宜連絡を取り、協力関係を築けるように努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>施錠については家族に理解していただき、防犯のために行っている。身体拘束を行わないように努めているが、利用者の安全上、やむを得ない場合には、同意を得て、行わざるを得ない。</p>	<p>管理者及び職員は身体拘束について理解し、常に話し合いをしながら業務に取り組んでいる。身体拘束を実施したことはないが、家族の同意や記録を残すように書類を整備する等して、体制を整えている。また、玄関内部にセンサーを取り付け、外出傾向を察知できるようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃から言葉使いや態度には注意を払っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>ミーティング等で勉強会を行っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>理解・納得が得られるまで十分に説明をし、家族の意見等も聞き入れている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で、利用者個々の要望を聞く機会を常に持ち、その都度話し合いをし、反映していけるように努力している。</p>	<p>家族等から意見を聞く機会を確保すべく、運営推進会議は家族の都合を優先して開催し、意見や苦情の把握に努めている。また、利用者の意見に関しては、担当制を用いて信頼関係を築き、表情等から訴えを理解し、話し合いを行い、反映できるように取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務後やミーティング等で職員の意見を聞き、反映に努めている。	月に1回は会議を行い、管理者・主任・職員間において、意見を表出する機会を設けている。また、日々の業務を通じて、適宜業務内容の見直し等について話し合い、改善できるように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの経験年数・実績を踏まえた上で、職員がやりがいを持って働けるように、環境整備に努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのレベルに合せ、外部研修への参加や内部研修を実施している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	圏域内のグループホームでの勉強会等を実施している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の中での様々な活動や会話・動作から利用者の要望、不安を聞き出せるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の困っている事、不安、要望等を聞き、相談を受けている。その中で、より良いサービスを受けれるように情報提供をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人の状態に合わせた適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動を通じ、より良い関係を築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告書の他、面会時に日々の様子や本人の思いを報告し、家族と共に利用者を支え合う関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中から聞き出し、可能な部分は継続できるように支援している。	入居時に本人及び家族から情報を収集をしている他、日々の関わりの中で気付いたことを職員間で話し合い、出来る限り、これまでの交流を継続できるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各活動の際、利用者同士の関わりを大切にし、安心して支え合いができるような環境作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には対応している。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の思いや意向を聞き、把握に努めている。	利用者に関わりのある人達から情報を得たり、本人の言動や仕草から、職員間で利用者の意向について検討し、対応について工夫しながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族より聞き出している他、利用者からも会話の中から引き出して、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との関わりを通じ、生活状況の把握に努めている。また、個別記録に記入し、全職員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いを聞き、職員による日常の中で気づいた意見等も取り入れた上でケアプランを作成している。	介護計画には利用者及び家族等の意見を反映させている他、職員が日常の関わりから気付いたことも取り入れている。また、介護計画は細かく具体的に作成しており、利用者の身体・精神状況に変化があった場合には、実施期間外でも随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーでの買い物や近所の学校の文化祭への参加等、地域との関わりが持てるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診を継続できるように支援している。	協力医院からの月2回の往診の他、家族の対応により、希望する医療機関へ受診することができる。家族で対応出来ない時にはホームで対応する体制であり、適切に医療を受けられるように取り組んでいる。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、協力医療機関との指針を定めている。急変時はその都度担当看護師へ連絡し、指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーと連携を図り、状態の把握に努め、早期退院に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医や家族と面談し、チームでの支援に取り組んでいる。	入居時に書面を用いて説明し、重度化や終末期に向けたホームの方針や対応について、利用者や家族との共有化を図っている。また、協力医療機関と連携を図れるよう、体制を整えている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変・事故等に対応できるよう、再確認の意味でも、定期的に勉強会を開いている。			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等、事業所内で訓練を行っている。また、災害時用の食料品・日用品を備蓄し、定期的に点検をしている。		年2回、避難訓練を行っており、夜間を想定した訓練も実施している。また、業者に委託して設備点検も定期的を実施し、非常食や物品を備蓄している他、災害時に地域から協力を得られるように、運営推進会議で働きかけを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言動には十分注意し、指導を行っている。個人情報に関する書類等は、持ち出し厳禁としている。		羞恥心には常に配慮しており、新人職員に対しては指導職員を配置して、利用者への声かけや対応について伝えている。また、不適切な言動についてはその都度職員同士で注意し合い、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを保護するための取り組みを行っている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表出できるように働きかけている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく個々のペースに合わせた支援を行えるように努めている。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を確認しながら、季節や天候に合わせて支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、準備や片づけ等を一緒に行っている。	利用者はおしぼりたたみや食事の後片付け等、出来る範囲で職員と一緒にしている。また、食事の調理方法を工夫する等して、利用者が食事を楽しめるように取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、食事・水分量を調整している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの誘導を行い、状態の観察に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表や個別のオムツ使用量を基に、トイレ誘導やオムツ確認を行っている。	排泄の記録を基に適時誘導している他、管理者及び職員間でオムツを外すための意見交換をしており、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューへ乳酸飲料を多く取り入れたり、運動を行うことで予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に合わせての入浴は行えていない。対応可能な場合は、希望に合わせてられるように努めている。	週に2回は入浴の機会を確保しており、入浴の順番を工夫したり、利用者の体調に留意しながら入浴時間を調整する等、利用者一人ひとりに応じた支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせ、休息をとっていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルへ処方箋を綴っており、変更があった際は、その都度日誌での報告をし、状態の観察に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに基づき、個々に合わせた支援を行っている。また、担当職員によるアセスメントやケアプランを作成し、支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中で希望を聞き出し、天候にもよるが、可能であればドライブ・散歩を行っている。家族へも協力していただき、安心して外出や外泊ができるように努めている。	職員が利用者の意向を聞き取り、希望があれば、買い物や天気に合わせて散歩に出かける等の外出支援を行っている。また、利用者の体調に応じて日程を変更したり、福祉車両を使用し、利用者の負担を軽減しながら外出できるように取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、利用者や家族の了解の得た上で、事業所で管理している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族の了解を得て、要望がある時には電話や手紙のやり取りができるように努めている。</p>			
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節にちなんだ展示物や写真を飾り、なるべく居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	<p>共同作業で作成した作品を飾り付ける等して、季節感を感じられるような取り組みをしている。また、職員の立てる物音やテレビの音量も適度であり、加湿器も準備する等、利用者が過ごしやすいような空間作りに努めている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日頃の様子を観察し、それぞれが思い思いに過ごせるようなスペースを確保する等の支援をしている。</p>			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者にとって使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んでいただけるよう、家族へ働きかけている。また、利用者の意向を取り入れて、居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	<p>居室に危険な物を置かないよう安全に配慮しながら、利用者の状況に合わせ、居心地良く過ごせるように飾り付けを行っている。また、使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらえるように働きかけを行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりに合わせ、自立した生活を送れるように支援している。</p>			